

「ラボ交換型生命医科学研究コンソーシアムの立体展開」プログラム報告書

早稲田大学先進理工学研究科生命医科学専攻 修士課程1年 後藤耀諒

シンポジウムに参加して印象に残った点などを報告する。シンポジウム初日のポスター発表では、英語になれておらず大変苦労したが、自分のポスターを見てくれる人もおり、有意義な討論を行うことができた。また、いくつかの面白そうなポスターについて発表を聞き、細胞の極性と ECM についての討論を行うことができた。また、二日目および三日目の講演は面白いものが多く、特に Dr. Alexander Bershadsky (MBI) の発表では、アクチン繊維の self-organization が必ず左巻きになるという観察結果と、それがフォルミンがらせん状にアクチンを伸長させていくという考察、さらにその考察に基づいたシミュレーションの結果が見事に一致していて興奮した。また、セッション終了後には早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所(WABIOS)の見学もさせていただいた。さらに、Dr. Chengkuo Lee (NUS) の研究室にもお邪魔させていただき、施設の一部を見学させていただくとともに、Dr. Chengkuo Lee およびその研究室の方々とも話し、面白い話をいくつか聞くことができた。特に、動物実験を行ったことがあまりない方が、施設のサポートを受けて講習を受けることができること、また、難易度が非常に高い、熟練した手技を要する実験などをテクニシャンの方にお問い合わせすることができることなどを聞き、実験のサポート体制が整っていることを感じた。また、その研究室に留学している日本人の博士課程の方の話聞くことができ、留学に関することを多く聞くことができた。

今回のシンポジウムに参加したことにより、異分野の方の、英語での発表およびシンガポールの研究室の方々の話を聞く機会に恵まれたことは非常にありがたかった。異分野の方々の発表を聞くのは非常に良い刺激になったと思う。